

私立大学情報教育協会
平成24年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース

D-1班

1

テーマ1

責任ある情報を公表するための
職員の役割

2

テーマ1:責任ある情報を公表するための職員の役割(1)

情報を公表する意義、目的

- 広報(志願者数の増加)
- 説明責任

情報公表の現状

- ミスマッチ
- 出したい情報しか出していない

3

テーマ1:責任ある情報を公表するための職員の役割(3)

教育情報の作られかた

課題:本当に外に出してもよいかどうかの判断が1部署に委ねられる(縦割り組織)(合意形成ができない)

公表する情報の作り方

- 何のために、誰に、何を伝えたいか明確にする
- 不利な事柄に対しても、どのような取り組みをしているかという視点で公表
- 情報を体系化することで意思を統一する(全てのステークホルダーへ)

4

テーマ2

学士課程教育の質的転換を図る
ための職員の役割

5

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

教育の質的転換の必要性

① 質的転換はなぜ必要か

■内部要因

教員の能力欠如
学修が不要なカリキュラム体制
自主的な学修環境の欠如
講義形式中心の授業体制
社会で通用する人材を育成する仕組みができていない

■外部要因

大学全入
グローバル化
日本の競争力の低下
産業界からの必要な人材の養成
社会からの求められる人材の育成
大卒に求められる人材の育成(高卒とは違う)

6

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

教育の質的転換のための準備

課題	必要な準備
大学入学者の入学動機・目的意識がない	目的意識を醸成するための仕組み作り
つきたい能力が身に付かない	重点科目の推進委員会等を作り、組織体制を整える、教員の教育力の向上
能力が身に付かないまま卒業してしまう	確実に能力をつけて卒業させるプログラムの確立
新入学生が大学の学びにスムーズに入っていない	高校時代の単位認定、高大連携の仕組みの充実 導入教育の充実
授業環境の整備が不足	授業評価アンケートの形骸化、 学生が自分の成績評価結果を聞ける仕組み、 物理的な環境作り(ハードウェアの充実)
学生ごとに能力差がある	プレースメントテスト等でレベル分けを行う

7

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割
教育の質的転換におけるICTの活用

知識詰め込み型の学修であれば、伝統的なe-ラーニング(CAI)が有効
分野によってはe-ラーニングは有効(ディスカッションや教材配布)
職員が教員にe-ラーニングのメリットを説明し、教員が学生に説明できるようにする
学生の成長の見える化、個人の達成度の管理(電子ポートフォリオ)
部門を横断して情報を活用するためにICTが必要(つながりがあるデータ)
教室でのICT(クリックカー)の活用(学生からの反応が見れる)
教員からのフィードバックが必要

8

テーマ1、テーマ2に関する関係性

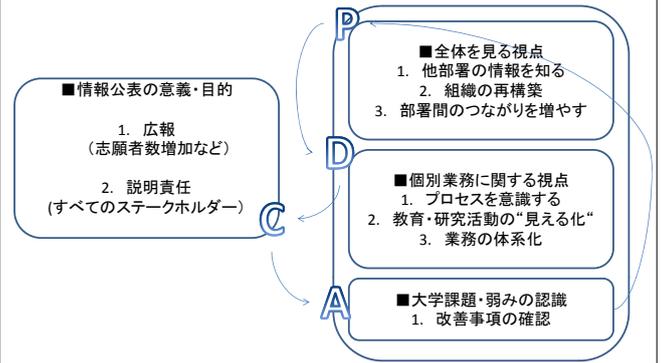
責任ある情報公表 ↔ 教育の質的転換

- 責任ある情報公表を通じて、大学の弱みや強みを認識し、教育の質的転換の動機づけとなる
- 学士課程教育の質的転換を図ることで、大学が自信を持って情報を公表出来るようになる

この繋がりを作るのが職員である！

9

テーマ1:責任ある情報の公表するための職員の役割
責任ある情報を公表するための職員の役割についてのまとめ



10

テーマ2:
学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割
学士課程教育の質的転換を図るための
職員の役割についてのまとめ

- カリキュラムの体系化を支援する
- 教員によるばらつきを是正するための支援
- 職員がデータを価値ある情報に変えて、教員と学士課程教育の質の向上に貢献する仕組みや場を設ける。(ICTを活用する)
- 教員の協力体制
- 教員が改革を行うよう促す体制を職員が担う。
- 教員を巻き込んで、質転換を促す。

11

今、職員として求められるもの

意識・姿勢

- 正しく誠実な姿勢
- ルーティンのみならず、マネジメントする姿勢
- 全体的な視点を持つ
- 経営していく意識
- プロセスを意識

能力

- 論理的な思考力(課題に対しての解決策を導くことができる)
- コミュニケーション能力(教員を巻き込めるような)
- 課題発見能力(社会のニーズをつかむ)

12